

トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v4.3.0)

2020/10/1



1. リリースノート
2. 動作環境や仕様変更

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化！

1997 「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic 認証方式を発明。

2000-2006 パスロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2008 Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応。

2010 セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2012 マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に！
(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IIJ など)
70万ID突破

2015 **100万ID突破**
エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始

2017 **110万ID突破**
IPアドレス制限、Windowsログイン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。
ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース

1997 PassLogic認証方式が米国特許(US6141751)を取得。会社設立。

2000 PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2007 Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ&SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。

2009 **80万ID突破**
運用の自動化を実現する機能拡充。

2011 クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。

2014 **90万ID突破**
小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。

2016 利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2019 エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始

2020 PassLogicクラウド版提供開始



V3系のライフサイクルについて

2019年3月のPassLogic Ent v4系のリリースに伴い、v3系のライフサイクルが下記の通り確定しております。

対象バージョン	EoS	EoL
PassLogic エンタープライズ版 v4系	v5.0の提供開始後に日時決定	EoSから5年後
PassLogic エンタープライズ版 v3系	2019/8/31	2024/8/31
PassLogic エンタープライズ版 v2系	2017/11/18	2022/11/18
PassLogic エンタープライズ版 v1系	2015/10/15	2020/10/15

メジャーバージョンアップ版は年間保守サポートサービスのなかでソフトウェアプログラムをご提供します。

EoS : End of Sales (販売終了)
EoL : End of Life (サポート終了)

リリースノート

リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【新規機能】

- サーバーOSとしてRHEL8に対応（RHEL7は非対応） **pickup**

【機能拡張/改善】

- PassLogic for Windows Desktopのインストール時に、PassLogic認証サーバURL未設定でインストールした場合、Windowsログイン時にPassLogic認証が起動しないよう変更
- PassLogic for Windows Desktop利用時のユーザデータ暗号キーのズレを防ぐための設定を追加
- PassLogic for Windows Desktop インストール設定のデフォルト値を変更
- リバースプロキシ機能に、新たな設定(ProxyPassReverseCookieDomain)を追加
- IPv6無効化環境へのインストールに対応
- LDAP ID同期機能の同期方式を見直し、AD側の設定上限(max_page_size 2万件まで)を超えた同期に対応
- 日付を取り扱う入力フォームの入力/書式チェックを改善
- admin権限管理者以外の管理者にメンテナンス画面のURLが非表示となるように調整
- リストア機能のエラーチェックおよびエラーメッセージを改善
- バックアップコンバータのメモリ使用量を削減
- UI、ログ、APIのリターン情報を含む英文メッセージの表示の改善
- リストア中のDBアクセスによってDBスキーマが破損する問題を改善
- マルチテナントモードにおいても、ユーザ向けURLの最後の「/」を省略可能とした



リリースノート

pickup

左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【不具合修正】

- radius認証ログ出力時に、特定ユーザフォーマットのユーザIDが空で表示される不具合の修正
- radius認証SSO時に、特定条件下でSSO対象ページのcookieを取得できない不具合を修正
- radius認証SSOかつ、認証方式がTOTPの場合にSSOが失敗する不具合の修正
- WebTokenの乱数表取得時に存在しないドメインをしているすると、localドメインとして扱われる不具合の修正
- WebTokenのダミー乱数表サイズが常に4x12となる不具合の修正
- SAML IdP initiatedにおいて、一部SAML仕様を満たせていない不具合の修正
- SAML SP initiatedにおいて、一部SAML仕様を満たせていない不具合の修正
- リバースプロキシ型SSOにおいて、BASIC認証を要求する複数のアプリと連携している場合に、特定条件下で多重に暗号化される不具合の修正
- PassLogic for Windows Desktopで、認証方式がPassClip/TOTPの時、Hybrid認証が利用できない不具合の修正
- PassLogic for Windows Desktopで、WindowsOSの言語設定が日本語/英語以外の場合に日本語メッセージが表示される不具合の修正
- IE/Edgeにおいて、WebToken表示におけるクライアント証明書提出が行えない不具合の修正
- LDAP認証連携で"ADパスワード保存"が無効のポリシーとなっているとSSO用ADパスワードが送信されない不具合の修正
- LDAP認証連携かつ認証方式がPassClipの場合に、メニュースキップ用URLからの初回ログインができない不具合の修正
- LDAP認証連携において、ADパスワードとして特定の記号が使用できなかった不具合を修正
- ユーザ登録において、認証方式TOTPとしてシリアル番号を空白とした場合のエラーメッセージを修正
- CSVユーザー一括登録で、現トークンのシリアル番号と同じ番号で交換用トークンが登録できてしまう不具合の修正
- ポリシー設定において、「追加フレーズの長さ」のエラーメッセージを修正
- ファイル形式がCSV以外のファイルでユーザー一括登録をした際のエラー処理の不具合の修正

▼次のページへ続く



リリースノート

pickup

左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【不具合修正】

- メールテンプレート文の誤記を修正
- メンテナンス画面を英語表記とした環境で、デタッチリンクが動作しない不具合の修正
- クライアント証明書発行画面にて有効期限などの入力更新できない事がある不具合の修正
- 監視用API (DBstatus) とメンテナンス画面のステータス表示が一致しない事がある不具合の修正
- PKI証明書を正しく発行できないことが起こり得る不具合の修正
- パーミッションエラーでログが書き込めなくなることがある不具合の修正
- マルチテナントモードにおいて、ユーザー一括登録用CSVテンプレートのダウンロード/アップロードの不具合/脆弱性の修正
- マルチテナントモードにおいて、複数テナントで同名グループが使用されていると、グループを削除できない不具合の修正
- マルチテナントモードにおいて、テナント削除を実行してもLDAP ID同期の同期間隔設定が削除されない不具合の修正

【仕様変更】

- /ui/?sso-saml={target}からアクセスするSAML SSOはIdP initiateの時のみとする
- リカバリ処理フェーズ1 (rebuild_p1) において、処理中のDB更新を許容するように変更
- PHPのメジャーバージョンアップに伴い、動作確認が完了していないリバースプロキシ用連携モジュールをパッケージから除外 pickup
- 認証APIへの80/443へのアクセスを初期状態では無効に変更
- PassClip認証のアクティベートURLをhttpsに変更
- PassLogic for Windows DesktopのサポートOSと対象PassLogicのバージョンを変更



動作環境や仕様変更

サーバーOSとしてRHEL8に対応

サーバーOSとしてRHEL8系(CentOS8系)に対応しました。
対応バージョンはRHEL8.1以降となりますのでご注意ください。

なお、PassLogic Ent-v4.3.0からはRHEL7は非対応となります。

サーバOS	Red Hat Enterprise Linux8.1以降 x86_64 ※2 CentOS 8.1以降 x86_64 ※2 ※Red Hat Enterprise Linux 9.xは未対応
httpd ※1	Apache HTTP Server version:2.4.37 Release:21.EL8.2.0 以降
php ※1	Version: 7.2.24 Release:1.module_el8.2.0 以降

リバースプロキシ用連携モジュールを一部除外

RHEL8に対応（PHPのメジャーバージョンアップ）に伴い、動作確認が完了していないリバースプロキシ用連携モジュールをパッケージから除外しています。以下が対象となります。

```
netScalerSF25.php  
storefront25.php  
storefront30nsx.php  
remoteapp.php  
storefront30.php
```